令和５年度 紫原小学校「学校だより」(NO.10)

つくしんぼ

Tel 251－1323 http://keinet.com/murasas

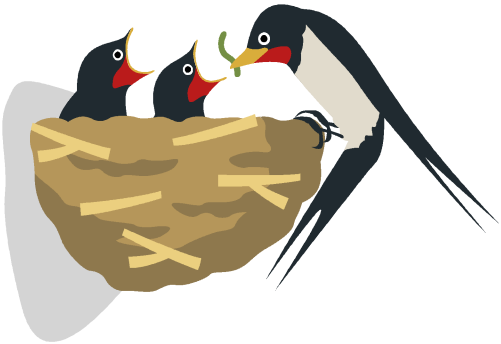
教育目標 夢と希望を持ち「自立」した紫原の子供を育てる
～あいさつ・掃除が確実にできる子供の育成～

発行日 令和６年２月27日
発行責任者 校長 川畑 敏彦

子育てについて考える～親の役割とは～

校長 川畑 敏彦

先日，４年生の「10歳のつどい」が行われました。多くの保護者の方々に見守られながら，子供たちが将来の夢を発表したり感謝の気持ちを伝えたりする様子を見て，子供たちの成長を感じられた方々も多かったと思います。私も，子供たちが緊張する中一生懸命発表する姿を見て感動しました。



私は娘が2人います。2人とも現在県外に住んでいますが，先日2人で帰ってきました。久しぶりに家族4人で過ごす機会。昔のように父親は娘と多く語ることはありませんが，同じ場所，同じ空間にいるだけでもほっとして，なんだかうれしいものです。

これまでのことを考えてみると，2人には苦労や辛い思いをさせてきたと思います。父親の転勤に合わせて小学校，中学校と何回も転校させました。友達との別れ，新しい環境での生活は大変だったでしょう。その頃は，それが当たり前と思っていましたが，妻や子供たちには相当なプレッシャーや苦労をかけたと思います。

そんなこともあってか，大学，就職は県外にという思いが強かったようです。「将来は近くにいてくれたら‥」という親の淡い期待も叶いませんでした。しかし，自分のやりたいことを自分なりに見つけて生活している様子を見ると，少し頼もしくも感じます。親の思うどおりにいかないのが子育てです。親と子供は別人格なので，当たり前のことです。

近年，スマホやインターネットの急速な普及により，バーチャルリアリティーへの没頭や一人世界の時間が増えることで「自己愛」の強くなった日本人が増えてきていると言われます。「自分しか愛せない人」は，自分しか見えなくなってしまい，他人の意見を聞かなくなる傾向が強いそうです。フランスの文学者が「自己愛」について「ちょうどわれわれの目に似ている。何でも見えるが，自分自身だけは見えないのだ。」と言っています。

そもそも子供は誕生した時から，親の「自己愛」を投影されていると言われます。

親は「自分が成し遂げられなかった夢を子供に託すことが親の期待である。」と考えがちです。「子供は，両親の叶えられなかった夢を実現すべきであり，父親の代わりに偉人や英雄になり，母親の満たされなかった夢を遅れて実現するために，王子を夫として迎えるべき。」とまで考える人はいないでしょうが，子供にかける期待というものは，親ならば誰しもが持つものです。

親は，子供を「弱いもの」という認識で子育てにあたります。しかし，母親と父親では子育てに違いがあると言われます。一般的に母親は「普通」になることを子供に求め，父親は「群れの中での強者」になること，子供同士の競争に勝ち残ることを子育ての目標にすることが多い。と聞いたことがあります。

この母親と父親の子育ての違いは，どちらを選べというものではなく，相互補完的なもので，どちらの要素も子育てには必要なものだと思います。

子育てに正解はないと言われます。親は子供に期待をかけすぎず，親も子も一緒に悩みながら，最終的に子供を「自立」させることこそが，子育ての正解ではないかと思うのです。私の子育てもまだまだ正解にはたどり着かないようです。